

## 社格問題がなかったら 二荒山神社の名称は大明神？

宇都宮伝統文化連絡協議会長 柏村 祐司



鳥居前に建つ式内大社の標柱 明治16年の社格回復を後世に伝えるために



戊辰戦争後再建された立派な拜殿  
これでも仮殿とい

宇都宮「荒山神社」、市民は親しみを込めて「ふたあらさん」と呼ぶ。しかし「二荒山神社」の名称は、明治以後に一般化したもので、それまでは「宇都宮大明神」と称し、氏子たちは「お明神さん」と呼んだものであった。宇都宮「荒山神社」の名称は、明治政府による神社の格付けを機によるものである。

明治四年（一八七二）五月太政官布告により全国の神社は、大・中・小の官幣社および国幣社と府・県・郷・村社ならびに無各社に分けられた。古代東国の開発に貢献した豊城入彦命を祭神とする宇都宮「二荒山神社」は、国幣中社に列せられた。ところが明治六年（一八七三）二月、二荒山神社は県社に降格し、代わって日光二荒山神社が国幣中社となったのである。その理由は、平安時代に編纂された延喜式神明帳に記載された「二荒山神社」とは、日光二荒山神社のことであり、宇都宮「二

荒山神社は神明帳に記載されていない、いわゆる「式外社」であるということであった。

宇都宮「荒山神社」で、この決定が大問題となったのは当然である。しかし、「二荒山神社」は、戊辰戦争の戦火により焼失し、社殿再建が先だった。明治十年（一八七七）社殿が再建され、その年の十二月になってようやく社格回復運動が始められたのである。先頭に立ったのは、祠官の戸田香園と氏子総代の県信緝である。

式外社とされたことに対する反論は、従来、「二荒山神社」は、宇都宮大明神と称してきたが、延喜式神明帳にある「河内郡二座大 二荒山神社 名神大」とは宇都宮「荒山神社」のことであり、したがって式外社ではなく宇都宮「荒山神社」こそが式内社であるというのである。二人は栃木県から添書をいただいて上京し書類を内務省に提出した。しかし内務省の返事は、都賀郡と河内郡と

の境界が、この件に深くかわるところなので調査中とのことであった。

明治十二年（一八七九）、調査の結果、宇都宮「二荒山神社」が延喜式神明帳に記載された河内郡「二荒山神社」であることが判明。したがって明治六年に出された式外社の決定を取り消すという。ところが意外にも社格回復については、政府の威信もあることなので出来ないということであった。

宇都宮「荒山神社」がこの決定に満足するはずもなく、社格回復運動をさらに展開したのは当然であった。県は病氣となり、悲願が達成できないまま亡くなったが、運動は県の遺志により氏子たちに引き継がれた。明治十六年（一八八三）五月三日、果せるかな河内郡役所において、宇都宮「二荒山神社」が国幣中社に列格された旨のお達しがあったのである。

明治新政府の神社格付けは、宇都宮「荒山神社」に思わぬ大問題をもたらしたのであった。これを機に宇都宮大明神の名称は、古代の名称「二荒山神社」に戻ったのである。もし、この神社格付けがなかったらば、果たして「二荒山」の名称はあつたらうか、大いに気になるところでもある。

ちなみに宇都宮「荒山神社」の正式名称は「ふたあらやま」、日光「荒山神社」は「ふたらさん」。主祭神は宇都宮「荒山神社」が豊城入彦命、日光「二荒山神社」は大己貴命・田心姫命・味耜高彥根命であり、それぞれ全く異なる神社であるという。